

2017(平成 29)年 12 月



公益財団法人 長崎平和推進協会

<https://www.peace-wing-n.or.jp/>

- ICAN にノーベル平和賞
- アジア青年平和交流事業 過去最多の 5 チームを認定
- 一龍斎春水が語る「火垂るの墓」 ■ 会員加入のご案内
- 県外講話・海外原爆展 in ベトナム
- 市民のつどい ■ 長崎国際平和映画フォーラム 2017
- 写真資料調査部会若手部会員もがんばっています！ ■ 会員の広場
- TOPICS! (深堀好敏氏が長崎新聞文化章を受章 ほか)



雨の「市民のつどい」(長崎原爆資料館階段下広場)

にノーベル平和賞

ジュネーブに拠点を置く国際非政府組織、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）が2017年のノーベル平和賞に決まり、12月10日の授賞式には田上市長も被爆者と共に出席しました。

受賞の理由は、核兵器を史上初めて非合法化する核兵器禁止条約の制定へ向けて「革新的な努力」を尽くしたとし、長崎や広島に被爆者と連携して核兵器の非人道性を訴え続けてきた活動が評価されました。

ノーベル賞委員会は「より多くの国が核兵器を手に入れようとする脅威が現実のものとなっている」として北朝鮮を名指しで非難、核保有国に対しては、核兵器削減に向け「真剣な交渉」を始めるよう求めています。

核兵器禁止条約は今年7月国連で採択され、9月20日から署名が始まり、すでに50を超える国・地域が署名しています。批准国数が50か国に達した後、90日を経て条約は発効することになっており、来年中には発効する見通しです。

略称のICANは、アイキャンと発音し、「私はできる」を意味します。今回の受賞は、戦後72年間にわたり一貫して核兵器廃絶運動を続けてきたヒバクシャたち、幅広い活動を続けてきた私たち長崎平和推進協会にとっても意義のあるものとして喜びたいと思います。

広報委員長 本田貞勝

原爆資料館前にお祝いの看板



2017

ノーベル平和賞受賞®

今回の受賞が追い風となり、「核兵器禁止条約」が国際的規範として確立されることを期待します。

icanとは？

アイキャン/核兵器廃絶国際キャンペーン
International Campaign to Abolish Nuclear Weapons

101か国468団体が参加する国際的なNGO(非政府組織)の連合体。2007年の発足後、各国政府や赤十字と連携し、核兵器の非人道性に関するキャンペーンを展開しています。

過去最多の5チームを認定！

「アジア青年平和交流事業」の発表・審査会を、9月10日に追悼平和祈念館で開催しました。今年度は過去最多の5チームから応募があり、すべてのチームが協会の事業として認定されました。現在それぞれのチームが、自分たちが考えた事業に取り組んでおり、3月に開催予定の「成果報告会」で発表していただきます。

長崎外国語大学(国際交流プロジェクト)



長崎純心大学(Green Pieces)



長崎大学(Peace Caravan隊)



長崎県立大学シーボルト校(金村ゼミ)



活水高等学校(平和学習部ふりそでプロジェクト)



自分たちが考える 国際・平和交流プログラム

長崎の若者が企画・提案する国際・平和交流プログラムを審査・認定し、事業を委託することで、その事業を若者自身に実施してもらう当協会の平和推進事業の1つです。



いちりゅうさいはるみ
一龍齋春水さん

声優・麻上洋子としての活動から一龍齋貞水(人間国宝)門下に入門、声優としての表現力と講談話芸の深みを融合させた新作講談に力を入れる。
男女共同参画や教育委員会・寺院など全国で講演を行っている。
代表作は五体不満足で感動的な人生を送った「中村久子伝」、野坂昭如原作の講談「火垂るの墓」、童謡詩人「金子みすゞの生涯」など。
声優としては「宇宙戦艦ヤマト」の森雪、「銀河鉄道999」のガラスのクリア、「シティーハンター」の野上冴子刑事など。NHK「視点論点」「ハートネットテレビ」などにも出演。

当協会では、会員の皆さまに平和への想いをさらに強くしてもらうこと、また協会活動を広く知ってもらうことを目的に、毎年講演会を開催しています。
今年「アニメ『宇宙戦艦ヤマト』森雪、「シティーハンター」野上冴子など有名な声優でもある講師の一龍齋春水さんをお招きして講演会を開催します。
長崎で初めての講談となりますので、ご応募いただき、一龍齋春水さんが語る「火垂るの墓」をお聴きください。

長崎平和推進協会 設立記念事業

一龍齋春水が語る 「火垂るの墓」



- と き** 平成 30 年 2 月 12 日 (月・振替休日)
開場 13 時 30 分
開演 14 時 00 分 (終演予定: 15 時 30 分)
- と ころ** 長崎原爆資料館ホール (長崎市平野町 7-8)
- 入 場 料** 無料 (郵便はがきによる応募が必要です)
郵便はがきに「郵便番号」「住所」「氏名(フリガナ)」「電話番号」および当協会会員は**会員**と朱書きし、下記までお申込みください。
● はがき 1 枚につき、1 人の応募となります。
● 協会会員に限り、はがき 1 枚で 2 人まで応募できます。
● 協会会員で 2 人応募する場合は「2 人希望」とお書きください。
- 応 募 方 法**
- 申 込 先** 〒852-8117 長崎市平野町 7-8
(公財)長崎平和推進協会「講演会」係
- 応募締切** 平成 30 年 1 月 26 日 (金) 当日消印有効
(応募者多数の場合は会員優先のうえ抽選となります)

会員 加入の ご案内

一緒に平和の輪を
広げませんか?



— 会員の種類 —

維持会員(個人) 3,000円以上/年
賛助会員(個人・団体) 1口10,000円/年
学生会員 1,000円以上/年

長崎平和推進協会は「核兵器の廃絶と世界恒久平和」の実現を目指し、昭和58年に設立されました。初代理事長の故・秋月辰一郎氏の「国民一体となって核兵器廃絶と平和を推進するために『小異を残して大同に集まる』という理念、つまり「異なる考え方はそのまま残し、核兵器廃絶という大きな共通認識で集合し、平和を推進していこう」という考え方を基本としています。

平和の尊さを次の世代に伝える「被爆体験講話」や、原爆資料館や被爆遺構を案内する「平和案内人」の育成・派遣、追悼平和祈念館の運営など、平和推進・啓発に関する様々な活動を行っています。

詳しくはホームページで紹介しています。まずは、お気軽にお問い合わせください。



平和案内人



被爆体験講話



とわ
永遠の会

問い合わせ先

公益財団法人 長崎平和推進協会
TEL 095-844-9922 E-mail info@peace-wing-n.or.jp
<https://www.peace-wing-n.or.jp>

被爆者自ら 原爆の悲惨さ、平和の尊さを届けに行く



築城昭平さん(90歳)／宮崎県日向市

今、一人でも多くの人に
被爆体験を聞いてほしいから

自分が体験したことを
二度と繰り返してほしくないから

被爆者の想いを日本全国へ！ 県外講話

平成29年度実績

大阪府八尾市
宮崎県日向市
島根県出雲市
宮崎県小林市
千葉県浦安市
神奈川県藤沢市
福井県敦賀市
鹿児島大学
新潟県柏崎市
(11月末現在)

※他にも長崎県の事業として、
県内外でも講話を行っています。

毎年、全国各地から被爆体験講話の依頼を受け、その市町村へ継承部会員(被爆者)が足を運んで講話を行っています。県外での講話は1日2回行うことがほとんどで、毎年依頼してくださる自治体もあり、現在活発に行っています。

今まで当たり前に行ってきたこの事業ですが、被爆者の高齢化により、自らその土地を訪れ生の声を届けることがだんだん難しくなってきました。だからこそ、継承部会員は原爆について触れる機会が少ない県外の子どもたちに「今聞いて欲しい」という思いを原動力として頑張っておられます。

「被爆者から直接体験を聴くと、本や映像を見るのとは違う感情が生まれてくる」という感想をよく耳にします。原爆とはどういうものなのか、戦争が起ったらどうなることになるのか、それぞれ色々なことを思い、子どもたちは「自分たちは今何ができるのか」ということを自然に考えるようになるのでしょう。

今年は、鹿児島大学の大学祭実行委員会からも依頼を受けました。被爆者の話を直接聴きたい、多くの人に聴いて欲しいという気持ちで、学生自ら企画したことは、これからの未来に繋がっていくように思います。

鹿大祭統一
実行委員会
に聞きました！



Q. どうして大学祭で被爆体験講話を実施しようと思ったのですか？

A. 今回、私たちが講演を依頼したのは、日本政府が今年の7月に国連で採択された「核兵器禁止条約」に反対していることを知り、とても危機感をもったからです。この問題に私たち学生はどう向き合えばいいのか、ぜひ戦争・被爆体験を通じて考えたいと思い、大学祭での講演をお願いしました。

Q. 被爆体験講話を聴いてどうでしたか？

A. 山脇さんの講話の中で、とりわけ当時11歳の山脇さんが、父親の死を目の当たりにした時の様子を語られていたとき、私は胸が詰まる思いになりました。ご自身の家族をあのような形で失うことの辛さは想像がつかません。

核兵器のむごたらしさを知り、72年前の日本で起きた悲惨な現実を二度と繰り返してはならないと、思いを新たにしました。戦争の危機が高まるいま、私たち若い世代が山脇さんの思いを受け継いでいこうと思います。かつての戦争を知らない私たちにとって、とても貴重な講話でした。ありがとうございました。

鹿児島大学・鹿大祭統一実行委員会 松原幸伸さん(水産学部1年)



ベトナム特有の笠と日本の折り鶴



USSH-VNU(ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学)の学生たち

追悼平和祈念館では、世界の人々に被爆の実相と平和の尊さを伝えるため被爆60周年にあたる2005年度から海外原爆展を行っています。

今年、9月25日から11月5日までの42日間、ベトナムの首都・ハノイ市で、「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」を開催しました。アジアでの開催としては2か国目となるベトナムは1975年にベトナム戦争が終結するまで多くの市民が犠牲となった国です。戦争や平和について市民の関心が高いと考え、開催の運びとなりました。

継承部会員の森田博満さんが、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学で3回、ハノイ日本人学校で1回、計4回の被爆体験講話を行いました。講話終了後は、「戦後どのように復興したのか」、「戦後日米の関係はどのように発展したのか」などの質問や「戦争の後遺症を乗り越えるのは大変」、「平和な世界実現のために頑張ります」などの感想が寄せられました。展示会場となった同大学では一人一人の学生が学んでおり、未来を担う多くの学生に被爆体験講話や写真パネルを通して核兵器による被爆の実相を伝えることができました。

展示会場で森田さんを囲み、一緒に折り鶴を折る学生たちの瞳が輝いているのがとても印象的でした。



原爆写真パネル

森田さんの被爆クソノキの説明に、学生たちは熱心に耳を傾けていた



平和のオブジェ

少数民族の集会場をイメージ。世界の人々が集まって平和を願おうとの思いが込められている



折り鶴

森田さんと学生たちは折り鶴で交流を図った

ベトナム社会主義共和国ハノイ市で開催された海外原爆展で、非核特使として被爆体験をお話しする機会をいただきました。

初日はベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学で100人の学生と一般の方を対象に、翌日は午前・午後と2回にわたり大学生160人に被爆体験を語りました。講話後は意見交換が活発に行われ、ベトナム戦争で大きな痛手を受けている国民でもあることから、「平和の大切さ」を良く理解していました。今後若い世代が「原爆の悲惨さ、核廃絶」をどのように伝えていくかを見守っていきたいと思います。

ハノイ日本人学校での講話では、生徒さんが熱心に聴いてくれたことが印象に残っています。後日、生徒さんから感想文が送られてきました。どの子も「戦争の悲惨さ・平和のありがたさ・命の尊さ・世界の恒久平和」を感じ取っており、この感想文は私の宝物として保管します。

最後に私を支えて下さった、在ベトナム日本国大使、講話を実施したUSSH-VNUの学長、通訳、スタッフの方に心から感謝申し上げます。

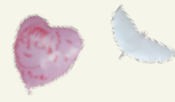


森田博満さん
(継承部会員 / 83歳)

これまでの開催国

アメリカ・スペイン・ベルギー・マレーシア・オランダ・トルコ・ロシア・アイスランド
ニュージーランド・カザフスタン・ドイツ

国連軍縮週間関連イベント 市民のつどい



- ① ミニコンサート
- ② 綿菓子・ポップコーンコーナー
- ③ 折り鶴コーナー
- ④ 原爆写真展
- ⑤ 戦時食コーナー
- ⑥ エコ風船コーナー



協力

- ・長崎県地域婦人団体連絡協議会
- ・活水高校平和学習部
- ・継承部会員
- ・写真資料調査部会員
- ・国際交流部会員
- ・音楽部会員



折り鶴うまくできました！

10月28日、毎年恒例の「市民のつどい」を開催しました。今年はいよいよの雨となり、一部は原爆資料館内へ場所を移して行いました。市民大行進が中止となったため、子どもたちの行列はできませんでしたが、特に外国の方がたくさん訪れ、真剣に平和のメッセージを書いたり、折り鶴を折ってくれました。



この風船、紙でできていて自然に還ることができます。だから飛ばしても大丈夫！

長崎国際平和映画フォーラム 2017

NAGASAKI INTERNATIONAL PEACE FILM FORUM

- ① 永遠の会と無名塾の朗読劇
- ② この世界の片隅に」上映前の行列
- ③ フォトワークショップに参加した皆さん
- ④ サヴィアーノ氏トークセッション
- ⑤ 高校生朗読



メッセージツリー

今回は「戦争によって失われていく日常」をテーマに、計4本の映画が上映され、永遠の会と無名塾のコラボによる朗読劇、被爆者を撮り続けている写真家ポール・サヴィアーノさんの写真展や高校生朗読、館内クイズラリーなどが合わせて行われました。

今回初めて行われたサヴィアーノさんによるフォトワークショップでは、「良い写真を撮るのに大切なのは機材ではなく心です」などのアドバイスを受けて、参加者は「平和」をテーマに撮影へ向かいました。

今年は特に、高校生など若い世代の参加が目立ちました。開催中は延べ1900人の来場者があり、とても賑やかな2日間となりました。

上映作品

- TOMORROW 明日
- 若い人
- チャップリンの独裁者
- この世界の片隅に

12月9日、10日、長崎国際平和映画フォーラムを原爆資料館ホール、追悼平和祈念館交流ラウンジで開催しました。

今回は「戦争によって失われていく日常」をテーマに、計4本の映画が上映され、永遠の会と無名塾のコラボによる朗読劇、被爆者を撮り続けている写真家ポール・サヴィアーノさんの写真展や高校生朗読、館内クイズラリーなどが合わせて行われました。

写真資料調査部会

若手部会員もがんばっています！



写真資料調査部会は、当協会が設立される4年前、昭和54年に原爆資料の調査・研究を行うため、被爆者6人が「長崎の被爆写真調査会」を発足させたのが始まりです。

10年ほど前には、活動の後継者に悩み、「部会員募集」を新聞で告知したこともありましたが、しかし、ここ数年、新メンバーが次々と入会しています。このうち、草野さんと米澤さんは20代、30代のニューフェイスです。

写真資料調査部会ではこれまで、被爆写真はプリントしたものをファイルに入れて保存してまいりました。しかし、デジタル化が進んだ今、写真データをパソコンに保存し、整理することが必要です。これは若者の得意分野。スピーディに作業が進むようになりました。

また、原爆の被害を世界に伝えるためには、英語での説明も必要です。写真展では、2人を中心に英語の説明文を付けたり、外国の方に英語で解説を行いました。

発足からまもなく40年。写真部会の初期メンバーは深堀部会長だけとなりましたが、20代から80代までの年齢も個性も専門も様々な9人のメンバーがアイデアを出し合い、力を合わせながら、写真資料調査部会の活動の輪はますます広がっています。



草野優介さん

— 29歳
— 平成26年12月入会



—入会のきっかけは？

大学の卒業論文で、被爆者のライフストーリーをテーマに深堀好敏部会長を取材しました。就職で長崎に戻り、深堀さんとのご縁から何か役に立ちたいと思って入会しました。

—写真館勤務の経験は写真部会での活動に影響していますか？

学生時代から写真に興味がありました。被爆写真の調査や被爆写真展の開催時にカメラマンとしての視点も加えられれば、と思っています。そのためにも深堀部会長の下でもっと勉強させていただきたいです。

—今後の活動への抱負は？

被爆体験の継承には、記憶を受け継ぐ側である若い世代の意見や感性が必要になってきます。活動を通して同世代の人たちと平和への考え方を発展させていきたいと思っています。



米澤佑樹さん

— 38歳
— 平成27年3月入会



—入会のきっかけは？

地元マスコミ勤務の妻の紹介で入会しました。大学、大学院で物理を専攻していたので、その観点から被爆写真を見ることもでき、とても貴重な体験をさせていただいています。

—活動を始めてどうですか？

被爆地以外ではまだまだ原爆の被害が知られていないと感じます。今後も被爆写真や被爆体験を収集し、誰にでも分かりやすいよう客観的に整理していこうと思っています。

—今後の活動への抱負は？

20年以上海外に住んでいたため、海外も含めた被爆地以外の人たちへの伝え方をより現実的に提言できるのではと思います。情報の整理・可視化を進める事や、写真部会の活動を次の世代に残すため、会の活動を記録していきたいです。

No. 3



お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8
長崎平和推進協会「会員の広場」係

「被爆の実相を伝え、二度と悲劇を起こさせない。長崎を最後の被爆地に」。高齢化が進む中で、文字通り、懸命に活動する被爆者の姿に心打たれます。また、同じ思いを共有し、核なき世界の実現という困難な課題に立ち向かう若者たちを誇りに思います。一方で、国連での高校生平和大使の演説が、今年は見送られることになった、という報道がありました。被爆の実相を語るようになった、という報道があったときに、70年前からあつた圧力が今もあること、そしてその圧力を跳ね返せなかったことを残念に思います。しかし、だからこそ、私たちの活動を粘り強く継続していくことの大切さを再確認させていただきました。

下 窄 英 知



Peace Wing Nagasaki

会員の広場

深堀好敏氏が長崎新聞文化章を受章

当協会の理事で、長年にわたり写真資料調査部会長を務めておられる深堀好敏氏が2017年度の長崎新聞文化章(平和・福祉部門)を受章されました。

深堀氏は、16歳の時、爆心地から3.6kmの学徒動員先で被爆され、被爆の翌日、がれきの山と化した坂本町の親戚宅で、息絶えた姉・千鶴子さんと対面しました。「前日に帰っていれば最期を看取れたかもしれない」という無念の気持ちから、平和活動に従事するようになりました。

1979年、有志6人で発足した「長崎の被爆写真調査会」においては原爆に関する写真の調査分析に心血を注ぎ、「原爆の実相を伝えるには写真の力が必要」という信念のもと、埋もれた多くの写真・資料を発掘するとともに、県内外で原爆写真展を開催するなど、原爆・平和に大きな功績を残されています。今年の平和祈念式典では、被爆者代表として「平和への誓い」を読み上げられ、参列者の感動と大きな拍手を誘ったことは記憶に新しいところです。

今回の受章は、長年の功績が憲章されたものであり、心からお喜び申し上げますとともに、深堀氏のこれからのご健勝を祈念いたします。



「第30回外国人と市民の集いと交流懇談会」開催



11月4日、長崎原爆資料館平和学習室で国際交流部会主催による「外国人と長崎市民の集いと交流懇談会」が開催されました。

長崎在住のイタリア、中国、バングラデシュ、インドの男性4人とマレーシアの女性1人をスピーカーに迎え、母国の文化や伝統の紹介のほか、それぞれの視点で長崎の印象を大いに語り、和やかな雰囲気の中で意見交換をして交流を深めました。

ロシアと初めてのピースネット

12月1日、ロシアの国立北西医科大学と長崎をインターネットでつなぎ、原爆で両親を亡くした田川博康氏(被爆当時12歳・継承部会員)が被爆体験を話しました。学長をはじめ、教授、大学生や日本語を学ぶ高校生ら約90人が参加し、講話後にはたくさんの質問が出ました。

田川氏は「目には見えない放射能の障害と核兵器の問題をどう解決するかが、大きな目標である」と締めくくりました。



世界の核弾頭の数 (2017年6月1日現在)

ロシア	米国	フランス	中国	英国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
~7,000	~6,800	300	270	215	80	~140	110~120	<20	~14,900

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1097人
- ◎賛助会員 144人
- ◎学生会員 12人

(平成29年12月14日現在)

賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎故・西田清ご遺族 (一〇万円) (敬称略)
- ◎森田博満 一万円
- ◎綿引義男 五千元
- ◎小方悟 三千元
- ◎長崎市立橋中学校年五組班 千円
- ◎匿名七人 三万二千円

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。今年度また会費を納めていただけない方は、何とぞ趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。ご確認ください。事務局までご連絡ください。

本紙は再生紙を使用しています。

平成29年12月28日発行
印刷 株式会社 藤木博英社

